



オタマジャクシの手足はどんな順で生えるの

まず足が生える

カエルの卵は、産卵後5～10日ぐらいすると、オタマジャクシになります。この期間は、カエルの種類や、そのときの気温などによってちがってきます。

ゼリーに包まれたようなカエルの丸い卵が、だんだんだるまのような形になり、まわりのゼリーのような膜をとかしてオタマジャクシになり、外へ出てきます。かえったばかりのオタマジャクシは、まだ、えらがあるだけで、目も口もなく泳ぐこともできず、水草などにぶら下がり、卵のときの栄養分で生きています。やがて、目、かじり取る歯のある口、しっぽなどができて、自由に泳ぎ、「も」や死んだ魚やカエルの肉などを食べて育ちます。

やがて、しっぽのつけ根のところから、小さい後ろ足が生えてきて、だんだん大きいカエルの足になっていきます。

左前足、右前足の順で出てくる

そのうち、左の前足が、えらのあなからとび出してきます。次に、右前足が、えらぶたの皮ふを破って出てきます。前足は、皮ふの下で成長してから、外に出てくるところが、後ろ足とちがっています。

前足もそろってくると、オタマジャクシは、食物を食べなくなります。物をかじっていた歯がぬけてなくなり、口や腸も変化し、肺ができあがり、えら呼吸から肺呼吸に変わり、カエルの体が変わっていくのです。しっぽもだんだん小さくなり、なくなってしまいます。

こうなると、もう、水中では生きていけなくなるため、陸に上がり、八エやカなどを長い舌で巻きこむようにしてとらえて食べる、カエルとしての生活が始まります。

(監修・今泉 忠明)

